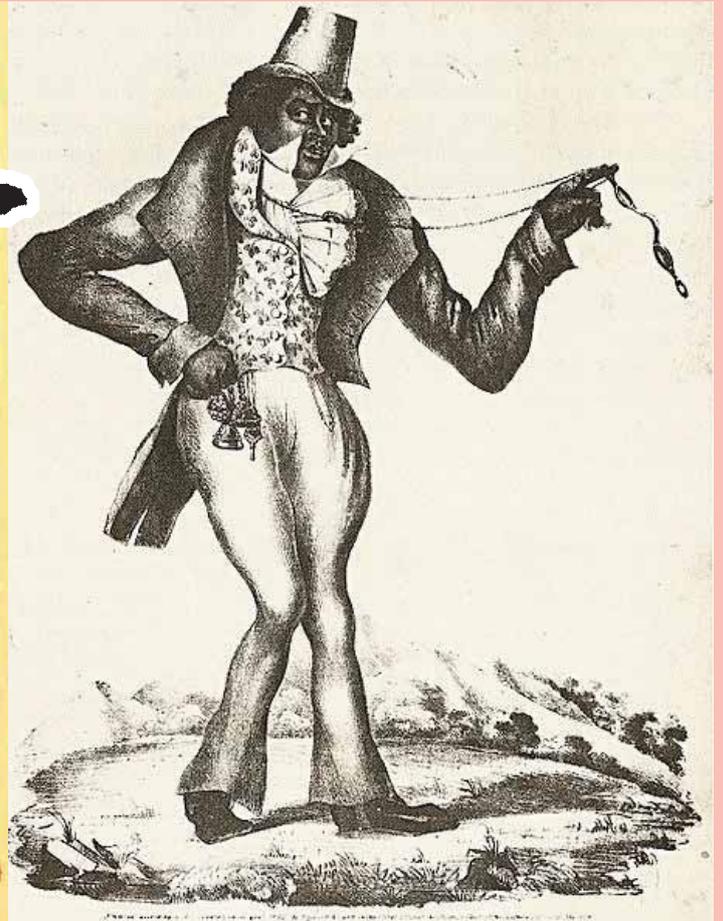
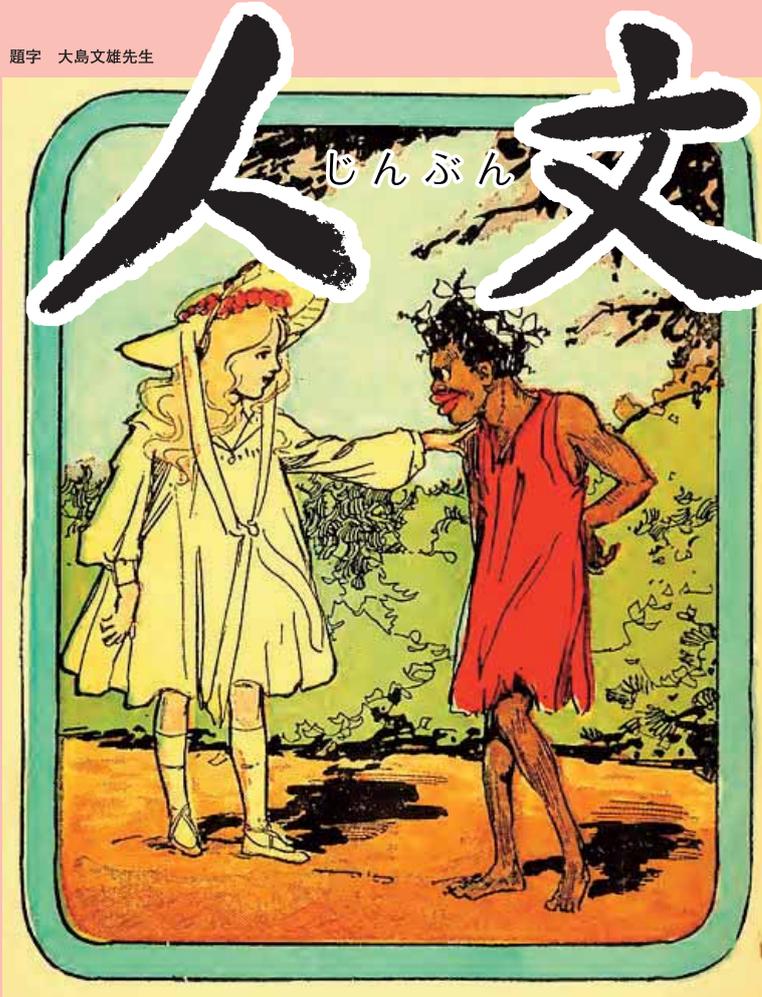


題字 大島文雄先生



赤尾千波先生のご著書『アメリカ映画に見る黒人ステレオタイプ』表紙（下）と、この本に掲載されている古典的黒人ステレオタイプのイラスト（上）です。詳しくは、今年度総会記念講演で実際に映画を観つつお話しいたできます。詳細は2ページ、8ページをご覧ください。

研究と教育のフロンティア

人文学部教授 赤尾千波

日本とアフリカの絵本と私

村田はるせ(50回フランス言語文化)

美に惹かれて 八木宏昌(34回比較文学)

佐伯彰一先生を悼む 人文学部長 大工原ちなみ

フランス語の未来 釣 馨(36回比較文学)

研究室から／言語学

学生とまちで過ごす日々 皆川恒子(56回考古学)

総会、人文の集い報告

人文学部の歩み 第1回 人文学部名誉教授 立川健治

卒業祝賀会報告・新刊案内

総会、第5回人文の集い開催案内

アメリカ映画に見る黒人ステレオタイプ
「国民の誕生」から「アバター」まで
赤尾千波
Chiharu Akai

**ハリウッド映画を
観る目が変わる!?**
「定番キャラ」の黒人像を掘り下げれば
アメリカ社会が見えてくる!

富山大学人文学部同窓会

〒930-8555 富山市五福3190

電話：(076) 445-6143

FAX：(076) 445-6141

E-mail：
alumni@hmt.u-toyama.ac.jp

「研究と教育のフロンティア」

―富山大学赴任二十周年を振り返って―

富山大学人文学部教授 赤尾千波



富山大学

人文学部に
助教授（現
在の准教
授）として
赴任して二
十年あまり、
教授に昇任

* * *

して十年目となる昨二〇一五年の春、これまでの研究と教育をまとめた単著『アメリカ映画に見る黒人ステレオタイプ』（富山大学出版会）を出版しました。そして同年七月には、富山県の女性研究者に授与される「国際ソロプチミスト富山・女性賞」第一回受賞の榮譽に浴しました。「人種や文化の多様性を認める学びにつながる研究」が評価されての受賞であったことは、筆者会心の喜びでした。

このたび、名譽ある同窓会会報『人文』に寄稿のお話をいただき、富山大学での二十年を振り返ってみたいと思います。

もともと、アリス・ウォーカーなど黒人女性文学が私の専門でした。現在の映画研究へと舵を切るきっかけとなったのは、

私の研究テーマを決定した一本の映画との出会い

一本の映画との遭遇でした。ロータリー財団の奨学生としてインディアナ大学大学院修士課程に在籍中の一九八五年、ウォーカーの長編小説『カラー・パール』がS・スピルバーグ監督によって映画化されました。町の小さな映画館でこの映画を観たときの衝撃を、私は今も忘れられません。それは「映画化とは、ここまで勝手に小説の筋を変え、小説ではあれほど斬新だったキャラクターを通俗的でステレオタイプのものに変えてしまうのか」という驚きでした。この強烈な「負の印象」は、帰国後いくつかの論文や共著書の中に結実し、その後の「小説の映画化に伴う問題」と「映画における黒人ステレオタイプ」研究の土台となったのです。

「ステレオタイプの理解を深めよう」という課題に取りくむ

その後の研究と教育活動は、「人種ステレオタイプの非白人キャラクターは何を意味し、何が問題なのか」を軸に、「問題あり」と感じた小説や映画を取り上げ、学会発表や論文投稿を行い、講義で扱うというものでしたが、そうするうちに、「ステレオタイプ」という言葉が一般の人や学生さんには意外と分かりにくいものなのだ、ということに気づきました。いかにして「ステレオタイプ」の理解を深めるか――これがこの二十年のもう一つの課題となりました。

まずは、赴任したばかりの一九九六年当時、イタリヤ系や韓国系のステレオタイプについて考えさせる映画『ドウ・ザ・ライト・シング』を撮った黒人監督スパイク・リーに注目し、映画を視聴しつつ講義をしました。同年開催の人文学部公開講座では「アメリカ映画に見る日本人、日系人ステレオタイプ」について解説。さらに授業で、映画『ガンホー』など日本人ステレオタイプが分かりやすく描かれている映画を観て日本人と黒人のステレオタイプを比較考察するなど、ステレオタイプというものをごく身近に感じ、理解できるように心を配りました。二〇〇〇年ごろから、コンピュータグラフィックス（CG）の発達により、『スターウォーズ』や『エイリアン』などのSF映画をリメイクし「リアル」な宇宙人キャラクターを造り、その宇宙人が従来の人種ステレオタイプを担うという現象が起きました。CG技術は、それまで映画化は不可能と思われていた『アド戦記』やS・キングの『グリーンマイル』のような文学作品の映画化も可能になりましたが、こうした映画の中にも人種ステレオタイプが意外に多く見つかりました。映画の楽しさに紛れ「気づきにくいステレオタイプ」を指摘し分析する作業が、私の仕事の一つでもあります。このように、その時代時代の作品を追ってステレオタイプを軸に分析を進めてきましたが、演習の授業では、受講生による映画分析プレゼンテーションの指導も、実践しています。

* * *

こうした経験を一冊の本にまとめたら、という話を実現した今、また新たな地平が広がったような感慨深い思いであります。七月の同窓会総会の講演では、映画を上映しつつ拙著の中核部分と授業を紹介する予定です。私の映画研究と教育現場の一端を体験していただく機会となれば、と思います。（卒論一覧や受講生による口頭発表資料は、研究室HPでご覧いただけます。）

日本とアフリカの絵本と私

村田はるせ (50回フランス言語文化)

私は保育士として約十年勤務

文学を勉強した。

した後に青年海外協力隊として

大学院を修了した現在は①フ

西アフリカのニジェールに派遣

リーのアフリカ文学研究者とし

され、帰国後社会人入試を受け

て知ってもらったための活動をし

て富山大学の人文学部人文学科

ている。②については、一般向

に入学した。短大を卒業して就

けのアフリカ講座を開いたり、

職したので、大学で四年間学ぶ

読書会を主宰したりしている。

のは初めての経験だった。保育

アフリカの文学作品を読むには、

士時代には、担当した子どもの

描かれる社会の歴史や文化、現

家庭の貧困や、外国人の保護者

在の政治・経済を学ぶ必要があ

とのコミュニケーションの問題

る。ところが勉強していると、

に日々悩まされた。「もつとでき

「知らなかったな」と思う事柄

ることがあるはず」と思いなが

が次々に出てくる。講座や読書

ら、知識を得て問題に対処する

会は、そうしたことを誰かと共

能力がなく、無力感に苛まれた。

有したくて行っている。①と②

この行き詰まりを打開しようと

の活動はつながっているのでは

して、協力隊に応募した。しか

る。さまざまな人に支えられて

しニジェールでは、目の前の人

こうした活動をしてきた結果、

の言語も文化もよく知らずに接

昨秋(二〇一五年)には、西ア

したら、相手を傷つけることも

フリカの旧仏領諸国で出版され

あると思ひ知らされた。無知と

た絵本を日本で初めて紹介する

はなんと恐ろしいのかと思った。

展示会「アフリカの絵本ってど

そのため大学では、必要なとき

んなの？」第一回目を富山市で

に必要な知識を見出す方法を勉

開催することができた。展示絵

強したかった。けれどさらに学

本は、アフリカを訪れて集めて

びたくなり、大学院に進学して

きたものである。私は、作家や



「アフリカの絵本ってどんなの？」第1回

出版社へのインタヴューなどを

通して、これらの絵本がどんな

思いから制作・出版されたかを

探ってきた。旧仏領アフリカで

は、経済、政治、文化活動への

フランスの影響がいまだに強

く、現地の子どものが自らの社会

や文化について読める本はまだ

あまり出版されていない。展示

した絵本は、この地域の大人た

ちが多大な努力をばらばらと

と出版した作品である。これら

は、貧困や悲惨な紛争というア

フリカのイメージとは異なる側

面、たとえば人々の日常生活、

課題に挑む子どもの姿、子ども

の想像の世界を見せてくれる。

絵本はアフリカを眺める一つの

窓なのである。第二回目の展示

会を五月十日まで富山市総曲輪

の「デフォー子どもの本の古本

屋」で開催している。また、八

月には広島県宮島でも展示する。

こうした展示会を開いてみて、

私の経験をたぐきワードの

一つは「絵本」だとあらためて

思った。子どものころは毎晩寝

る前に絵本を読んでもらった。

父の横に弟と寝そべって絵本を

見ていたら、枕元に虫がきたの

でよく見たら、ゴキブリだった。

「この虫もお話を聞きたかった

のかな」と幼い私は思ったもの

だ。通っていた保育園でも、絵

本や紙芝居を読んでもらうのを

楽しみにしていたので、小学生

になると「おもしろい本を読ん

でくれるかもしれない」と期待

して先生をみつめていた。そん

な私の成績はいつも振るわなか

った。大人になり、保育士にな

ってからは、絵本を読むことは

唯一自信をもつてできる仕事だ

った。クリスマスに読んで子ど

もに大人気だった絵本は『どの

さまサンタ』(本田カヨ子作/長

野ヒデ子絵)だった。大学での

卒業論文では、コートジボワ

ールの女性作家の絵本作品を取り

上げた。大学院を修了すると、

関東で暮らす母の介護が始まり、

幼いころ読んでもらった絵本を

今度は母に読んだ。声を出して

(立山町在住)

のだろうか。

実は大学院時代には、保育と

は無関係な本を読み「私はどこ

に向かうのか」と自分でも戸惑

っていた。しかしその後現在の

活動をするうち、卒論で取り上

げたアフリカの絵本を探求しよ

うと思うようになった。絵本は

アフリカの現実を伝えたいとき

わかりやすく教えてくれるから

である。この探求が絵本の展示

会に結実した。こうして絵本は

私の人生のあちこちに顔を出し、

最終的に保育士の経験と現在の

活動をつないでくれている。そ

うなるには、富山大学で過ごし

た時期が重要だったのだと思っ

た。入学したとき周囲よりもずいぶ

ん年長だった私を、先生方はふ

つうの学生として扱い、知識を

探求する方法を教えてください

た。この時期を支点として人生

の二つのパートはバランスをと

り、今の私を助けてくれている

美に惹かれて

八木 宏 昌 (34回比較文学)

美術館学芸員になって30年近くになる。大学時代には、よもやこのような職に就くとは思ってもよらなかった。

私を美の世界に誘ったのは、富山県出身の詩人、美術評論家の瀧口修造であった。ミロ、ダリ、岡本太郎、武満徹など、瀧口は国内外の数えきれないほど多くのアーティストと交流した稀有な存在だったので、瀧口について学ぶことがそのまま現代の芸術を学ぶことになり、瀧口周辺の芸術家と交流することが芸術の現場を知ることとなった。美術を学んでもいない私が学芸員になった理由があるとすれば、大学時代に培ったこの経験にあるといっても過言ではないだろう。

とはいえ、けっして人に誇れるようなことではない。展覧会や演奏会に毎月のように出掛け、音楽家や前衛アーティスト、舞踏家、文化人たち(集中講義を受けた文化人類学者、故山口昌男氏にもお世話になった)と知

り合い、新宿ゴールデン街などで飲み明かした経験や、富大祭に呼んだアーティストや文化人との個人的な交流等。よくよく考えると、遊び惚けていた大学の時代の蓄積が今の自分を作り上げたようなものである。何が人生を決めるかわからない。



ブルックリンで篠原有司男氏(右)と

さて、私の勤める富山県立近代美術館は、来年、富山運河環水公園に移転し、富山県美術館として新たにスタートする。私は、その開館記念展に携わっており、先日も挨拶と協力依頼のためニューヨークに赴いた。憧

れ的美術館の学芸員と面談したが、つたない英語と極度の緊張に苦労したのは言うまでもない。だが苦労ばかりではなかった。墨汁をつけたグローブでキャンパスを殴りつけながら描く、ボクシングペインティングで知られる美術家、篠原有司男氏を訪ねることができたのだ(福山雅治とのCMでご存知かも)。夫人が高岡市出身ということもあって、近しくしていただいている

のだが、80歳を過ぎてなおスタジオでエネルギーッシュに制作を続ける姿に元気をいただいた。とまあ、相変らずアグレッシブな生活を送っているが、博物館実習や博物館展示論の講義で今も富大生たちに接している。この道に進む後輩を微力ながら応援できればと願っている。

(富山市在住)



佐伯彰一先生を悼む

富山大学人文学部長 大工原 ちなみ



在りし日の佐伯彰一先生

佐伯彰一先生は、地元芦峯寺で代々続く神官の家柄のご出身とお伺いしております。旧制富山高校を経て、東京帝国大学英文科を卒業後、東京立大学や東京大学、中央大学等で教鞭をとられました。その後、世田谷文学館、三島由紀夫文学館のいずれも初代館長をご歴任されました。一九八二年には、日本芸術院賞を受賞され、八八年より日本芸術院会員となられ、九四年には、それまでの輝かしいご功績が認められて、勲三等旭日章を叙勲されました。

広くご活躍されました。アメリカ文学を中心に翻訳書も多く、また、三島由紀夫研究の第一人者としても知られており、新潮社刊行の三島由紀夫全集の編集をご担当されました。近年は、神道にもご関心を寄せられて、『神道のこころ』などの著書を記されました。二〇一六年一月一日、肺炎のためご逝去。九十三歳でした。先生が直接富山大学で教鞭をとられましたのは、人文学部の前身であります文理学部時代の短い間ではございましたが、人文学部時代にも集中講義の形でたびたびアメリカ文学等のご講義をしていただきました。人文学部に対する先生のご貢献に深く感謝申し上げますとともに、佐伯彰一先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

(写真提供 富山県芸術文化協会)

ご専門はアメリカ文学ですが、それに加えて、文芸評論や比較文学などの分野でも幅

学生とまちで過ぐら日々

皆川 恒子 (56回考古学)



イベントなどを企画している大人や、商店街の方々、まちにまた遊びにきた人。多種多様です。

MAG.netはまちで人と人が出会う場所。MAG.netという愛称のように、磁石のように人同士がくっつき、何かが始まる。

富山市の総曲輪通り商店街にある、学生や若者の活動拠点&コミュニティスペース「富山まちなか研究室MAG.net(マグネット)」。富山市の第三セクター(株)まちづくりとやまが富山市と連携して運営しています。私はこのMAG.netで常駐スタッフとして、日々学生たちと過ごしています。

このMAG.netには、毎日、小学生から大学生、大人まで、様々な人が訪れます。県内の大学生による学生団体「街なかメイクアップサポーター」をはじめ、まちづくりに興味のある学生はもちろん、宿題や受験勉強をする人。友達と一緒におしゃべりする人。まちで何かしたいと思つて相談にくる人。まちなかで

にオープンし、今年の七月で五周年を迎えます。嬉しいことにMAG.netで学生時代を過ごした卒業生が、時々MAG.netに立ち寄ってくれ、現役学生たちの相談にのつてくれたりする場面も見られるようになりました。県外に就職した人が、帰省の時期、MAG.netに顔を出してくれたり、社会人になっても、まちなかのイベントなどに関わる人もいます。

学生の日々の成長を、みんなで見守り、応援できる、そんな素敵なまちになってほしい、と思います。みなさんもぜひ仲間になってみませんか?一度MAG.netにぜひお立ち寄りください。(富山市在住)



平成二十七年 富山大学文学部同窓会総会

平成二十七年七月十一日
ボルファートとやま

平成二十七年度より
会計年度に
合わせ七月
に総会を開
くこととし
た最初の総
会です。総
会には同窓生である河合隆富山
大学同窓会連合会会長も出席さ
れ、ご挨拶いただきました。



まず平成二十六年度業務報告、
決算報告が承認され、続いて二
十七年度事業が、原案通り承認
されました。役員人事では、新
任理事に米屋保雄氏(63回言語)、
瀬戸もえぎ氏(63回日本文学)
が承認されました。また、清水
勝理事(9回英文)のご逝去が
報告されました。

総会後
文学部
准教授大
西宏治先
生による
記念講演
「若者に
とつての



富山の「まち」——中心市街地の時代変化——に興味深く拝聴しました。
その後行われた懇親会では、
大工原学部長、大西先生と共に
同窓生の歓談が盛り上がりました。

第四回 人文の集い

平成二十七年十一月七日
文学部第一講義室

秋晴れの空のもと、同窓生、
学部生、旧制富山高校OBの方
や文学部の先生方、合わせて
六十名が参加しました。



今年の講
演は、富山
大学名誉教
授海老原直
邦先生の
「感情とは
何だろうか
——心理学的
な視点から——」でした。自分の
ものでありながら思うに任せな
い「感情」というものを、該博
な知見で解き明かしてくださり、
参加者一同大変興味深く拝聴し
ました。
講演終了後、昼食懇談会が開
かれ、海老原直邦先生を囲み、
和やかに歓談しました。

さて、出会いがあるというこ
とは、寂しいことに、別れもあ
ります。学生は、いつかは必ず
「卒業」という時期を迎えます。
毎年、三月は卒業していく学生
たちとのMAG.netでの日々
を思い出し、寂しい想いでいっ
ぱいになります。卒業する学
生たちが、どんな風に羽ばたいて
いくのか楽しみでもあります。
MAG.netは二〇一一年七月

人文学部のあゆみ 第一回

―旧制富山高校の設立―

富山大学名誉教授 立川健治

明治末年、帝国大学へ進学権

を保障される旧制高校は、第一

(東京)、第二(仙台)、第三

(京都)、第四(金沢)、第五

(熊本)、第六(岡山)、第七

(鹿児島)、第八(名古屋)の八

つしかなかった。明治四一(一

九〇八)年段階で、全国の旧制

中学卒業者は一万四九五〇人、

旧制高校入学者は二〇〇九人、

同卒業者は一二六九人、二〇歳

の男子数は四五万四〇〇〇人余

旧制高校への進学者はこのよう

に少数、いいかえれば「エリー

ト」であった(天野郁夫『大学

の誕生(下)』中公新書、二〇〇

五年)。

当時、帝国大学は東京、京都

東北、九州の四つ、旧制高校卒

業生はほぼ志望通りに進学する

ことができた。

明治末年、富山県内の旧制高

校への進学者は数十人。一番近

い金沢の四高にさえ、仕送りを

受けて進学できる県内中学卒業

生は極めて限られていた。

このような状況にあつて、旧

制高校設置は富山県民の願いと

なっていた。しかし歴代政府は

新設を認めることはなかった。

しかし第一次世界大戦を契機に

経済発展を遂げつつあったのを

受けて、時の原敬内閣は、大正

八(一九一九)年度から六ヶ年

継続事業として「高等諸学校増

設および拡張の計画」を実施す

ることになった。これにより各

県において旧制高校設置が認可

される可能性が開けることにな

った。だが問題は、多額を要す

る開校資金が、原則として自己

調達であったことであつた。

これに応えたのが県内有数の

素封家の馬場家の馬場はるであ

つた。開校資金として約一五〇

万円を寄附。大正一二(一九二

三)年一〇月旧制富山高校は、

県立の中高一貫七年制(尋常科

四年、高等科三年)として文部

省から認可を受け、「学問の攻究

とともに高邁な精神と闊達な希

有をもった人格の涵養」を謳つ

て、大正一三年四月尋常科、一

四年四月高等科が開学した。馬

場はるは、教員、学生のために

小泉八雲の蔵書を購入(ヘルン

文庫)、また教員の留学費用や研

究書の購入費用、研究費の補助

も行い、旧制富山高校を支援し

続けた。

そして旧制富山高校は、多く

の有為な人材を輩出していくこ

とになる。

(川崎市在住)



人文学部側の旧制富山高校創立記念碑。昭和三(一九二八)年一〇月の開校式典にあわせて作られたもの。



卒業祝賀会、華やかに開催

は大工原学部長を始め先生方や同窓会役員も出席し、緊張感から解き放たれた学生たちは互いに卒業を祝いました。

毎年卒業祝賀会では卒業生の

中から新理事を募っており、当

日、高野靖彦さん(大学院28回

歴史学)、三石純也さん(64回哲

学・人間学)、藤井潤さん(64回

英米言語)の三名の方が理事に

推挙されました。

平成二十七年の卒業生は学

部生一八二名、大学院修了生は

五名で、人文学部の同窓会員は

八四八六名となりました。

.....

理事会の詳細、及び総会と人

文の集いの講演についてはホー

ムページをご覧ください。



去る三月二十三日午後二時より、平成二十七年人文学部卒業祝賀会がホテル・グランテラス富山で開かれました。午前の富山大学卒業式、午後の人文学部卒業証書授与式に続き、同窓会が主催するものです。会場に

新刊案内

人文学部ゆかりの方々の新刊を紹介します。

中世日本海の流通と港町

仁木宏 綿貫友子編 木原光 (31回考古学卒)、榊原滋高 (42回考古学卒) ほか執筆 清文堂出版 2015年3月刊

芥川龍之介ハンドブック

庄司達也編 小谷瑛輔(准教授)ほか執筆 鼎書房 2015年4月刊

大集結邪馬台国時代のクニグニ

香芝市二上山博物館友の会ふたがみ史遊会編 高橋浩二(准教授)ほか執筆 青垣出版 2015年4月刊

福田恒存 総特集

河出書房新社編 佐伯彰一(旧教員)ほか執筆 河出書房新社 2015年5月刊

ブリジット・ジョーンズの日記ー恋に仕事に子育てにてんやわんやの12か月 上・下(角川文庫)

ヘレン・フィールディング著 亀井よし子(12回英文卒)訳 2015年5月刊

電気は誰のものか 電気の事件史

田中聡(33回文化構造論・13回専攻科卒)著 晶文社 2015年8月刊

ここまでわかった古代王権と古墳の謎(新人物文庫)

『歴史読本』編集部編 高橋浩二(准教授)ほか執筆 KADOKAWA 2015年9月刊

平成28年度人文学部 総会のご案内

吹き渡る風にもはや夏の兆しを感じられる一方、4月中頃の熊本大地震により自然の脅威を改めて感じさせられるこの頃ですが、皆様にはお变りなくご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて本年度の総会を、下記の要領で開催いたしますので、多数の皆様のご参加をいただきたく、ご案内申し上げます。
人文学部同窓会長 米原 寛

日時 平成28年7月9日(土) 総会 午後1時30分～ 講演 講師 人文学部教授 赤尾 千波
講演 午後2時40分～ 演題 アメリカ映画に見る黒人ステレオタイプ-研究と教育の現場から
場所 ボルフアートとやま(富山市奥田新町81 TEL 076-431-1113)

講演要旨

ノミネート俳優が白人で占められた今年のアカデミー賞——〈多様性の欠如〉だと糾弾する動きは、多様性 (diversity) が注目される現代社会を象徴するものと言えましょう。富山大学では、多様性について学び多様な生き方を認める社会の創出に向け、男女共同参画推進室をはじめ、様々な活動を展開中です。一方、私の研究する stereotype (紋切型の人物像) は、この多様性を認める発想とは正反対の存在。講演では、多様性を拒み、ステレオタイプの人物を容認する背景と問題点を、映画を観ながら検討する一方、今や主流となった「映画で卒論」(赤尾研究室では一昨年、昨年度と、卒論生8名中7名が映画で卒論を執筆) の実際も、紹介します。

懇親会：午後4時 会費：5,000円(当日受付でお納め下さい)

お知らせ

第五回人文の集い

講演：「富山からアフリカ・東南アジアへ」

講師：中部大学国際関係学部

教授 青木 澄夫

(22回史学卒業)

期日：十月二十九日(土)

午前10時～11時三十分

会場：富山大学人文学部一階

第一講義室

少年時代からの「海外への夢」を実現させ、ライフワークにしたグローバル人の軌跡を語っていただきます。

(ご経歴)富山大学で日本史を専攻。卒業後に入社した外資系企業を一年で退社、ケニアのスワヒリ語学院に学ぶ。ケニアやタンザニアの日本人学校などの教員を経て、国際協力事業団(JICA)に入団。インドネシア、ケニア、タンザニアの各事務所勤務した後、平成十六年に中部大学教授に就任。研究テーマは日本とアフリカ・東南アジアの関係・交流史。学生には国際協力、開発教育を教える。

終了後、十一時五十分より人文学部第二講義室にて昼食会を予定しています。講演は参加費無料、昼食会は会費二千元(学生五百円)で、どちらか一方だけの参加も可能です。

総会、人文の集いとも同封ハガキでお申し込み下さい。多くの方のご参加をお待ちしています。

同窓会連合会報告

平成二十七年富山大学同窓会連合会総会が去る七月十六日(木)に富山電気ビルで開催されました。二十六年事業報告、決算報告、二十七年事業計画、会計予算が審議承認され、引き続き、役員、新役員改選があり、長期にわたり連合会幹事長として尽力され退任された高井正三氏(理学部同窓会)への感謝の言葉とともに、新幹事長田代発造氏(仰岳会)の紹介がありました。総会終了後、元富山県立図書館長、鷲本義昌氏の記念講演「平家物語に学ぶ」があり、九二名の参加者、また懇親会には六九名の参加者がありました。

平成二十七年年度第八回ホームカミングデー報告

平成二十七年十月十日(土)、富山大学五福キャンパスにて、人間発達学部、経済学部の担当により、開催中の大学祭企画シンポジウム「よりよい富山をめざして」富大生が考える北陸新幹線の今と未来」を聞き、続いて施設見学として共通教育棟、経済学部特別資料室を見学し、最後に新装なった大学食堂にて懇談会が行われました。

人文学部教員異動

退職 (平成27年3月)

○立川健治(国際文化論)

○草薙太郎(イギリス言語文化)

○澁谷由里(東洋史)

○ヴェステスラフ・カザークヴィチ

(外国語教育専任教員・ロシア語)

着任 (平成27年4月)

○マルガリータ・カザークヴィチ

(外国語教育専任教員・ロシア語)

○鄧 芳(同・中国語)

藤井 一行

(旧教員・国際文化論)

平成27年12月25日

致しませぬ 佐伯 彰一

(旧教員・英文学)

平成28年1月1日

お祈り 安藤 三郎(3回英文)

平成27年5月10日

福を 清水 勝(9回英文)

平成27年6月21日

冥福を 志麻 愛子(19回国文)

平成28年1月8日

年会費の報告

年会費納入状況をお知らせ致します。平成27年6月～平成28年3月まで、262名(終身会費10名・年会費252名)の方々から352,000円の年会費を納入していただきました。ご支援、ご協力を厚く御礼申し上げます。

編集委員

- 田中 史子
- 成瀬裕美子
- 山本 孝一
- 谷口 恵子
- 山藤 登
- 畠山 節子